CASBEE熊本《新築》【 性能表示 】

■ 建物概要

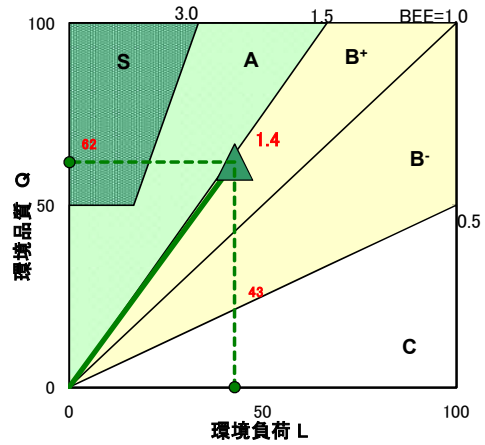
建物名称	(仮)エイルマンション日吉	階数	地上11F
建設地	熊本県熊本市日吉一丁目1250-9	構造	RC造
用途地域	工業地域、防火地域	平均居住人員	241 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場, 集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年3月 予定	評価の実施日	2012年1月10日
敷地面積	2,266 ㎡	作成者	渡邉 浩之
建築面積	710 ㎡	確認日	2012年1月12日
延床面積	5,400 ㎡	確認者	古賀 巌

■ 外観

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

★★★☆☆



BEE = 1.4

■BEE（環境効率）= Q（環境品質） / L（環境負荷）

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値 BEE値	判定値 Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	ー
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	ー
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	ー
C	★	劣る	0.5未満	ー

■ライフサイクルCO_2 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO_2排出性能（ランク表示）

☆☆☆☆☆

排出率

81%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点

78

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	72.1
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	81.2
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	90.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	73.5

■熊本県重点評価基準

判定値（評価点）	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE熊本《新築》【 評価結果 】

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築（簡易版）2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要

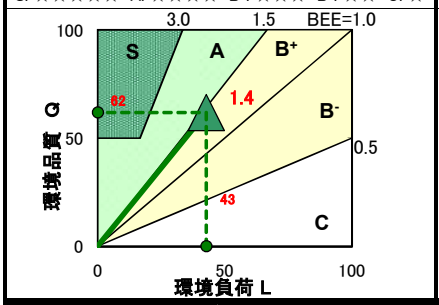
建物名称	(仮)エイルマンション日吉	階数	地上11F
建設地	熊本県熊本市日吉一丁目1250-9	構造	RC造
用途地域	工業地域、防火地域	平均居住人員	241 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場, 集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年3月 予定	評価の実施日	2012年1月10日
敷地面積	2,266 ㎡	作成者	渡邉 浩之
建築面積	710 ㎡	確認日	2012年1月12日
延床面積	5,400 ㎡	確認者	古賀 巌

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率（BEEランク&チャート

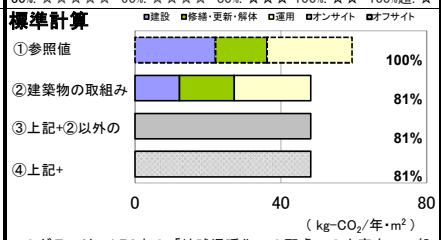
BEE =1.4

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



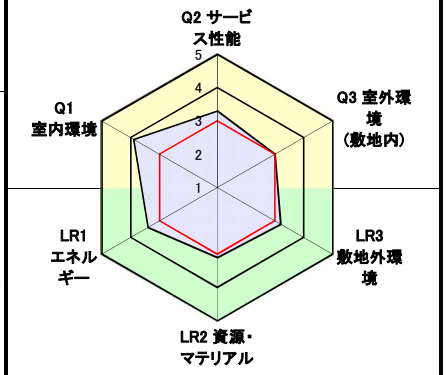
2-2 ライフサイクルCO_2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです （

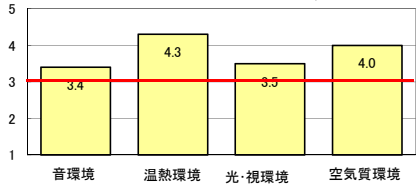
2-3 大項目の評価（レーダーチャート）



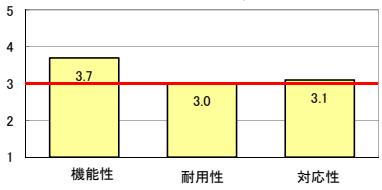
2-4 中項目の評価（バーチャート）

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.4

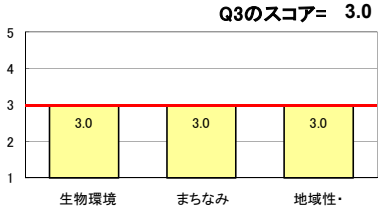
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.9



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.3

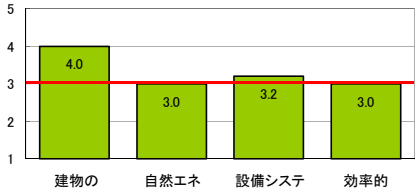


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 3.0

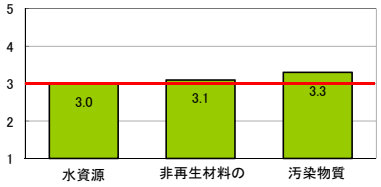


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.2

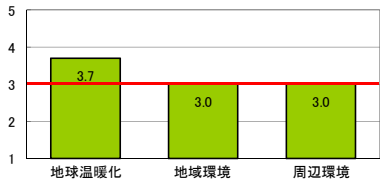
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.4



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア=3.1



LR3 敷地外環境　LR3のスコア= 3.2



3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点 = 78

重点事項1:温室効果ガス排出量削減の推進

評価点 = 72

重点事項2:安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点 = 81

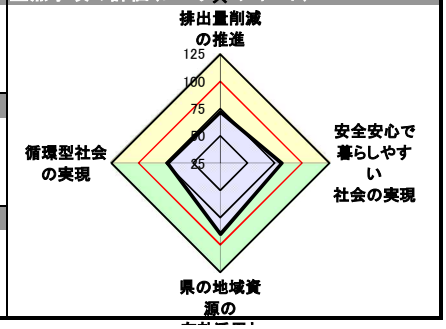
重点事項3:県の地域資源の有効活用と保全

評価点 = 90

重点事項4:循環型社会の実現

評価点 = 74

重点事項の評価（レーダーチャート）



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Building Environmental Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO_2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE熊本《新築》【 配慮事項 】

4 設計上の配慮事項

総合

建物の環境品質を充実させ、環境負荷の低減にも努めた。

Q1 室内環境

界壁の厚みを200mm以上とし、隣戸間の遮音性能の向上に努めた。また、断熱性能の確保及びＦ☆☆☆☆の材料の積極的な採用を行った。

Q2 サービス性能

手摺の設置や段差の解消などバリアフリーに配慮した。

Q3 室外環境（敷地内）

アプローチ廻りに植栽や水施設を設けたり緑地や空地の確保にも努めた。

LR1 エネルギー

タイムスケジュール制御・明るさ感知による自動点滅制御を採用した。

LR2 資源・マテリアル

節水器具の選定など、節水に努めた。また、有害物質を含まない材料を採用した。

LR3 敷地外環境

一部駐車場への緑化ブロックの採用をはじめ、敷地内の緑地・植栽の充実に努め、ヒートアイランド現象の緩和を図った。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称	(仮)エイルマンション日吉

■評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)　　■使用評価マニュアル：CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	77.8
重点事項	重点項目（配慮項目）	スコア	重み係数	評価点	重点事項重み係数	評価配点
① 温室効果ガス排出量削減の推進				72.1	0.40	28.84
	Q1-2.1.3	外皮性能	1.0	0.15		
	Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.01		
	Q1-3.2.2	昼光制御	1.0	0.01		
	LR1-1	建物の熱負荷抑制	4.0	0.14		
	LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20		
	LR1-3	設備システムの高効率化	3.2	0.30		
	LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10		
	LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10		
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				81.2	0.20	16.24
	Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25		
	Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25		
	Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15		
	Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20		
	LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15		
③ 県の地域資源の有効活用と保全				90	0.20	18.00
	Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20		
	LR2-1.1	節水	3.0	0.30		
	LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20		
	LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	5.0	0.30		
④ 循環型社会の実現				73.5	0.20	14.70
	Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.3	0.30		
	Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.30		
	LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10		
	LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15		
	LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15		

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　（各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数）の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項（①～④の項目）

評価点　＝　（各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数）の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20 ： スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
(仮)エイルマンション日吉

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築（簡易版）2010年版
■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.4
Q1 室内環境			0.39			3.9
1 音環境		2.9	0.15	3.6	1.00	3.4
1.1 騒音		3.0	0.49	3.5	0.50	
1 室内騒音レベル	43dB(A)寝室・客室	3.0	1.00	4.0	0.50	
2 設備騒音対策		-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音		2.9	0.49	3.7	0.50	
1 開口部遮音性能	T-1サッシを使用	3.0	0.96	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能	壁厚RC150　日本建築学会『建物の遮音設計資料』による	1.0	0.04	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	性能Lr-45の材料を使用	3.0	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	性能Lr-50の材料を使用	3.0	-	4.0	0.20	
1.3 吸音		1.0	0.02	3.0	-	
2 温熱環境		1.0	0.35	5.0	1.00	4.3
2.1 室温制御		1.0	0.50	5.0	1.00	
1 室温		1.0	0.60	-	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能	熱損失係数＝3.56、夏期日射取得係数＝0.059、	1.0	0.36	5.0	1.00	
4 ゾーン別制御性		3.0	0.04	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		2.7	0.25	3.7	1.00	3.5
3.1 昼光利用		4.2	0.30	4.0	0.35	
1 昼光率	共用部分＝2.8%、住居部分＝3.0%、	5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口	南側に窓	-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備	昼光利用設備無し	3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		1.0	0.30	4.0	0.35	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御	カーテン、庇で抑制	1.0	1.00	4.0	1.00	
3 映り込み対策		-		-		
3.3 照度	100lx以上	3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御	器具で制御	3.0	0.25	3.0	0.29	
4 空気質環境		4.1	0.25	4.0	1.00	4.0
4.1 発生源対策		5.0	0.59	5.0	0.63	
1 化学汚染物質	建築基準法規制対象外となる建築材料をほぼ全面的に使用	5.0	1.00	5.0	1.00	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.39	2.3	0.38	
1 換気量	建築基準法を満たす換気量(シックハウス対策含む)	3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		-	-	1.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮	空気取り入れ口は汚染源のない方位に設置	3.0	0.50	3.0	0.33	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		3.0	0.02	-	-	
1 CO_2の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		–	0.30	-	-	3.3
1 機能性		3.2	0.40	3.8	1.00	3.7
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	4.0	0.60	
1 広さ・収納性		1.0	0.03	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応	100Mbitのブロードバンドが利用可能	1.0	0.03	4.0	1.00	
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の最低限のレベルを満たしている	4.0	0.94	-	-	
1.2 心理性・快適性		2.8	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観	天井高＝2,525	1.0	0.03	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		1.0	0.03	-	-	
3 内装計画	評価する取組みが2項目	3.0	0.94	3.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	評価する取組みが5ポイント	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	評価する取組みが6項目	3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.0	0.31	-	-	3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
1 耐震性	建築基準法に定められた耐震性を有する	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能	免震、制震装置を導入していない	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.3	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	等級2相当	4.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	更新間隔20年	4.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	亜鉛鉄板を使用	3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水にVLP、PEP使用　排水にVPを使用	5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	更新間隔15年	3.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新		-	-	-	-	
2.4 信頼性		2.6	0.19	-	-	
1 空調・換気設備	評価する取り組みが1項目	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	評価する取り組みが1項目	3.0	0.20	-	-	
3 電気設備	評価する取組み無し	1.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	耐震クラスB	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	評価する取り組みが1項目	3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性		3.5	0.29	3.1	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり		2.4	0.03	3.2	0.50	
1 階高のゆとり	階高＝2,910	2.0	0.60	4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ	駐車場壁長さ比率＝0.48	3.0	0.40	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり	積載荷重＝1,800N/㎡	-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		3.6	0.97	-	-	
1 空調配管の更新性	構造部材を痛めることなく更新可能	3.0	0.17	-	-	
2 給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく更新可能	4.0	0.17	-	-	
3 電気配線の更新性	構造部材だけでなく仕上げ材も痛めることなく更新可能	5.0	0.11	-	-	
4 通信配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく更新可能	5.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性	更新ルート等は確保されているが更新・修繕時に建物機能の維持	3.0	0.22	-	-	
6 バックアップスペースの確保	バックアップ設備スペース無し	3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）		–	0.31	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出	評価する取組みが7ポイント	3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	評価する取組みが3ポイント	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	評価する取組みが2ポイント	3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	評価する取組みが7ポイント	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		–	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー		–	0.40	-	-	3.4
1 建物の熱負荷抑制	エネルギー対策等級4に相当	4.0	0.36	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.21	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用	住戸が外皮2方向に面している	3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用	評価する取組み無し	3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		3.2	0.40	-	-	3.2
集合住宅以外の評価（ERRによる評価）	ERR=28.7%	4.6		-		
集合住宅の評価		3.0		-		
4 効率的運用		3.0	0.03	-	-	3.0
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル		–	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護		3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水	節水型器具を使用	3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用システム無し	3.0	0.97	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.03	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.1	0.63	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	敷地内に既存躯体無し	3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	リサイクル材を使用していない	3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	ー	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	栂（針葉樹）を50%以上使用	5.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	評価する取組みが2ポイント	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.22	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用	評価対象とする建材を使用していない	3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.68	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤（断熱材等）	ODP＝0かつGWPが低い断熱材を使用	5.0	0.50	-	-	
3 冷媒		2.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		–	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮	換算スコア＝3.8	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止	現行の排出基準以下	3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	評価する取組みが6ポイント	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	基準を満たしている	3.0	0.33	-	-	
3 交通負荷抑制	評価する取組みが3ポイント	4.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音	規制対象建築物以外	3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	自主的な対策を評価しない	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		3.0	-	-		
3 日照阻害の抑制	日影規制無し	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	評価する取組みが2ポイント	3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策	グレアについて特に影響無し	3.0	0.30	-	-	